

職能科通信 23号

2014年3月発行

職能科通信

検索

〒243-0121
神奈川県厚木市七沢 516
神奈川県リハビリテーション病院
職能科
TEL&FAX 046-249-2575

高位頸髄損傷の入院患者さんへの在宅雇用支援

職能科では、2008年より重度身体障がいの方への在宅雇用支援を行なってきました。それまでは、維持(慢性)期の入院・外来患者さんが多かったのですが、今回、回復期の高位頸髄損傷の入院患者Aさんへの支援を紹介します。

Aさん(30代、男性)は作業中、高所からの転落で頸髄を損傷され(C4レベル)、チンコントロールの電動車いすを使用されております。

受傷後11週に当院へ転入院され、22週から支援を開始しました。当初は「在宅生活の実際の状況がわからない」「経済面が心配」「具体的に、これからの人生がどうなっていくのか」という、今後の見通しへの不安がありました。

理学療法士・作業療法士・リハエンジニアにより身体機能面のリハビリ、座圧計測を踏まえた電動車いすの調整・作製、パソコン操作環境の整備を進めつつ、当科では相談支援、職能評価・訓練(パソコン)、情報提供、生活学習、ピアサポートを実施しました。

表1 職能科での支援

パソコン	マウススティック使用してワード、エクセル、パワーポイントの学習
情報提供	障害当事者団体、在宅雇用を推進する企業、在宅就労支援機関を紹介
生活学習	高位頸損者の在宅生活の動画と講演会パワーポイントの視聴や著書を読む
ピアサポート	先輩の高位頸損者8名より、健康・生活管理、社会参加、在宅雇用を聞く



写真1 パソコン訓練



写真2.3.4 ピアサポートの様子

受傷後42週にご本人より、将来の目標として「人の役に立つ仕事がしたい」との希望がだされました。50週で退院された後、受傷後の自分を振り返り、入院時に体験したピアサポートについて当センターの研究発表会で発表されました。

Aさんへの支援を通して、ピアサポートにご協力いただいた当事者の方々に感謝するとともに、今後も連携した支援を行なってまいります。(松元 健)



写真5 研究発表の様子

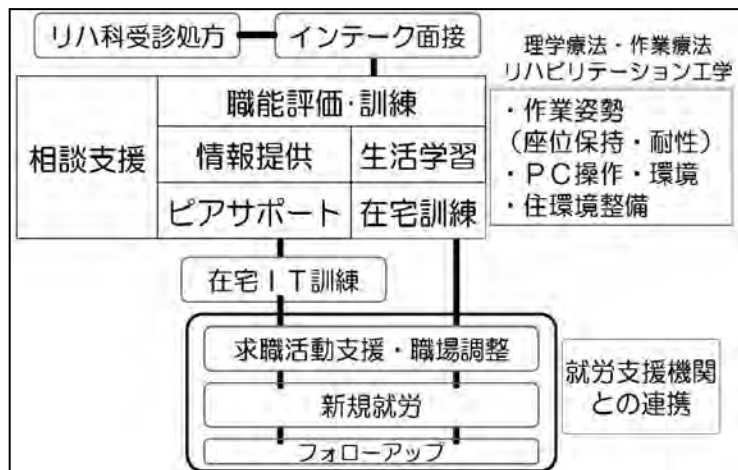


図1 在宅雇用支援プログラム

「通院プログラム」 職能科セッションのご紹介

当院では高次脳機能障がいをお持ちの利用者の皆様に向けて通院グループ訓練として4ヶ月間の「通院プログラム」を年2回実施しています。参加者は職業リハや社会参加を考えていく段階の方6~7名です。医師、MSW、と各リハスタッフ(PT/OT/ST/心理/体育)とともに当科も支援を行っています。この取り組みの一番の目的は「ご自身の障がい(苦手なところ)に気付いて頂く」事にあります。当科のセッションでは「模擬会社(鉢植えリース)の新人職員研修」を想定し「顧客(他部署)を訪問し鉢植えの交換業務」を行う過程で「電話対応」「要望などのメモ」「上司への報告」等の練習と実際を経験して頂きます。サービス業になりきり、各々の役割を果たし、グループメンバー相互に助け合いながらご自身を客観視されるような発言が聞かれたり、代償手段の有用性(必要性)に気付いていただいています。(千葉 純子)



写真6 職員によるデモ風景

平成25年度就労支援の実績

職場内リハビリテーション実施人数	
2014年1月~2月の人数	4名
2013年4月からの累計	13名

就職・復職者の人数		
2014年1月~2月の 就職・復職者	新規就労	2名
	復職	3名
2013年4月からの累計	新規就労	13名
	復職	24名

幕張版ワークサンプル(MWS) 作業日報集計の紹介

障害者職業総合センターで開発されたMWSは、職業評価ツールとしてだけでなく、障がいの補完手段や対処行動の習得、職務を遂行する上で必要なスキルを向上させるなど訓練としても活用できるツールです。障がいの適応範囲も限定されていないので、当科では主に高次脳機能障がいの利用者に活用させていただいております。

OA作業、事務作業、実務作業から構成されており、今回は事務作業の一つである『作業日報集計』(写真7)をご紹介します。ファイルに綴じられている作業日報から指定された日時、対象者の日報を選び、作業種ごとに作業時間や作業量、不良品数を集計して不良率を計算する課題です。この課題は、情報処理の複雑さや認知的負荷レベルという意味でワークサンプルの中でも難易度の高い作業であり、情報処理速度や正確性、作業理解という面で状態を把握するには適当な課題であると思います。また、訓練として作業耐性や持続、集中力を養うにも有効であると思われます。(今野 政美)



写真7 作業日報集計